

# 稲・大豆作情報 (NO. 1)

## 1. 水稲作況情報田の生育概況 (6月30日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況			概 況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	主 稈 出 葉 数	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/㎡	本 年	31.8	73	5.4	6月下旬は、平年より高温・少 雨・多日照で経過している。
		平 年	29.9	99	5.8	
		平年比	(106)	(74)	(-0.4)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 18.0株/㎡	本 年	25.2	72	4.6	草丈は、「夢しずく」では平 年より高く、「さがびより」 は低い。
		平 年	27.6	86	5.8	
		平年比	(91)	(84)	(-1.2)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/28 19.3株/㎡	本 年	-	-	-	茎数は、分けつが発生してお らず、平年より少ない。 主稈出葉数は、平年より遅れ ている。
		平 年	16.5	75	4.4	
		平年比	(--)	(--)	(--)	

注1) 各品種 前作：麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる  
注2) 平年値は、過去10年間 (H24~R3) の平均値

### ◆農業試験研究センター米づくり情報1号 7月1日 (抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 c m	茎 数 本/㎡	葉 齢 L	概 況 (平年と比較して)
	ヒノヒカリ	本 年 平 年 平年比(差)	20.2 23.7 85	132 121 109	5.3 5.7 (-0.4)	
6月20日	さがびより	本 年	22.1	90	5.2	
		平 年	25.0	76	5.4	
		平年比(差)	88	118	(-0.2)	
	ヒヨクモチ	本 年	18.9	107	5.2	
		平 年	22.6	131	5.7	
		平年比(差)	84	82	(-0.5)	

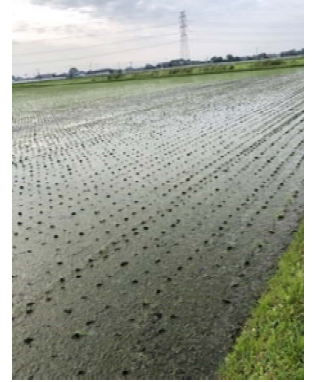
- 注1) 「夢しずく」、「ヒノヒカリ」は、6月17日移植の稚苗(播種期5/23, 播種量 湿粳 180g 箱)  
「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月20日移植の稚苗(播種期5/26 播種量 湿粳 180g 箱)
- 2) 栽植密度: 「夢しずく」は、条間30cm×株間17cm, 19.6株/㎡(65株/坪)  
「さがびより」は、条間30cm×株間20cm, 16.7株/㎡(55株/坪)  
「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間30cm×株間15cm, 22.2株/㎡(73株/坪)
- 3) 栽培管理: 施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。
- 4) 概況欄の【草丈】、【茎数】の平年値との比較については、以下のように定義している。  
低い(少ない): 94以下、やや低い(やや少ない): 95~98、平年並み: 99~101、  
やや高い(やや多い): 102~105、高い(多い): 106以上。
- 5) 平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差σを算出し、±1σの外側にある年次を除く年次を対象にした、各項目の単純平均値。

## 2. 水稲管理

### 初期分けつの確保、ガス抜き、スクミリンゴガイ食害回避のため、落水・浅水管理を徹底！

#### ○水管理 ～ 時期に応じた水管理の徹底 ～

- ・深水管理は、分けつ抑制、ガス抜き不良、スクミリンゴガイ食害 等の水稲の生育に悪影響を及ぼすため、除草剤施用後 湛水期間を過ぎた圃場は、溜め水とせず速やかに間断かん水に移行し、土壤に酸素を供給し、稲体の健全化を図る。
- ・また、今年も高温多照で推移しているため、田面の表層剥離や藻の繁殖が多く確認される。深水管理は、吹き寄せによる稲の押し倒しによる欠株を助長するため、速やかに浅水管理に移行し、浮遊物の吹き寄せや藻の発生を制限する。
- ・今後も高温が続くことが予想されるため、ガス湧きが確認されている圃場は、1～2日落水→数日浅水管理→1～2日落水を繰り返し、土壤の急激な還元化を抑制する。  
特に水面に油膜が見られる場合は早急に落水する。
- ・スクミリンゴガイの食害も昨年ほどは多くないが、各地で確認されている。表層剥離の吹き寄せ 貝の活動抑制を図ることができる浅水管理にすると共に必要に応じスクミノン、スクミンバイト3などで薬剤防除を実施する。
- ・余り苗は、いもち病やウンカの温床になるため、補植作業が終わったら、直ちに除去する。



表層剥離の吹き寄せ

#### ○雑草防除（早植え水稲）

- ・本年は、移植後の用水不足で、節水管理が行われている地区がある。湛水期間を十分にとれずに初中期除草剤の効果が十分に発揮できなかった圃場では、高温条件のもと早い時期からの雑草発生が懸念されるため、中後期除草剤を用い早めに対策を講じる。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー 1 ㌔粒剤	移植後 7 日～ル I 4L 但し、収穫 30 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	クリンチャー EW	移植後 20 日～ル I 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン 1 ㌔粒剤	移植後 15 日～ル I 4L 但し、収穫 45 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 60 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
	バサグラン液剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 50 日前まで	
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15 日～ル I 5L 但し収穫 50 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。（展着剤無加用）
	ハイカット 1 ㌔粒剤	移植後 15 日～ル I 3.5L 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	フォローアップ 1 ㌔粒剤	移植後 15 日～ル I 5L （稲 4 葉期以降） 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～5 日は湛水）
	ワイドアタック SC	移植後 20 日～ル I 6L （稲 5 葉期以降） 但し、収穫 30 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。（展着剤無加用）

○病害虫情報(発生および防除)

- トビイロウンカは、現在のところ 6/25 に飛来が確認されている。飛来量は下表のとおり。
- 移植時期や品種によって、発生状況は異なるため、それぞれの地区・品種別に発生状況を注視し、適期防除に努める。
- 農業技術防除センターから 6/29 に発信された発生予測図は右図のとおり。
- 暫定防除時期(6/29 現在)  
第一世代幼虫期 7/11~24

防除する場合は、湛水するとともに株元まで十分にかかるよう丁寧に散布する。

6月23~25日頃(図では6月25日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(6月29日以降は平年値)を基に作成。



表1 イネウンカ類のトラップでの捕獲状況(2022年)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ				
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県		
		佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	2	0	11	0	0
	22日	0	2	0	0	0	5	1	1	1	0
	23日	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0
	24日	1	7	0	0	0	3	2	1	2	1
	25日	1	41	0	0	0	3	18	3	1	0
	26日	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0
	27日		65		0	0		8		0	0
	28日										
	29日										
	30日										

注)佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査。嬉野市ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。  
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。



### 3. 大豆管理 ～播種適期です。播種前後の天候を見計らって、大豆の播種を行いましょう～

#### ○圃場準備 ～ 耕起は水分の低い時に、大雨・長雨予報の時は無理しない！～

- ・荒起こしは播種前日～当日に行う。  
(耕起してから降雨にあった場合は土壤水分が低下しにくく、晴天が続く場合は乾燥しやすい)
- ・播種は、圃場の排水が良ければ平畦で播種し、覆土と培土で高い畦に仕上げるのが通例である。しかし、近年頻発する大雨による被害を軽減するためには、畦立てによる播種が理想である。この場合は、培土に使う土を残すため、荒起こしを深めに行い、播種時は浅めに起こしながら1畦2条播きとし、条間を中耕培土できるようにしておく。
- ・成形ロータリもしくは、麦用の「畦盛り板」をロータリに装着して畦立て播種すれば、表面排水も良くなるため、湛水による出芽不良を軽減することができる。
- ・耕うんと播種を2台のトラクターで並行して組作業を行えば、晴れ間の作業が可能となるとともに土壤水分を確保しつつ播種が可能になる。
- ・雨が多く耕起できない時でも早めに播種でき、生育期間の干ばつ時にも水分保持が可能な播種技術(麦畦を利用した部分浅耕播種や不耕起播種)があるので、導入を検討する。

#### ○播種

・種子消毒：紫斑病や腐敗防止および発芽率の向上のため、必ず実施する。

・播種量：

播種日	栽植本数 ㎡あたり	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月1日～5日	10本	75×25×2	3.0
7月6日～20日	13本	75×20×2	4.0

・播種深度

播種後2～3日以内に降雨が予想される場合→2cm程度の浅め 鎮圧はしない

播種後1週間以上好天が予想される時や、土壤が乾燥気味の場合→4cm程度の深めかつ 鎮圧する

・除草剤 播種直後に土壤処理剤を散布し、雑草防除を行う。

特に近年問題となっているホオズキ類の発生が多い圃場においては、「ラクサー乳剤」が効果的である。

### 4. 台風対策

#### 【水稲】

##### ○山間早植え水稲

最高分けつ期水稲は茎葉の繁茂度が高く、水分の蒸散量が著しい時期である。茎葉が損傷すると根の老化が進むので、用水を確保できる場合、台風前は深水に湛水する。台風通過後は、土壤中に酸素を補給し根の活力を維持するため短期間の断水や、間断灌水を励行する。

##### ○普通期水稲

風による稲体の震動を少なくするため、できるだけ深水管理に努める。台風通過後は、新しい水と入れ換えた後、間断灌水により水稲生育の回復に努める。

##### ○共通対策

- (1) 台風前は深水管理を行うが、通過後は汚濁した水を排除し、新しい水と入れ替えるなど、水稲が回復するよう水管理に留意する。
- (2) 水田に海水流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と入れ替える。  
出来れば掛け流しを行って除塩するか、少なくとも2～3回は水を入れ替え、生育回復に努める。
- (3) 冠水した圃場は灌排水口の確認を行い、異常があれば補修を行う。

- (4) 集中豪雨により、クリーク水との水位差がなく圃場へ逆流したり深水状態が続くと、スクミリンゴカイの被害が拡大する恐れがあるため、用排水の管理をきめ細かく実施するとともに、薬剤による防除を検討する。
- (5) 麦わらをすき込んだ圃場で、麦わらが吹き寄せ等により稲株を押し倒したり、稲株に覆い被さっている場合は、レーキ等で取り除く。併せて用排水の管理をきめ細かく実施し、豪雨による麦わらの浮き上がりを防止する。
- (6) 台風通過後は茎葉の損傷で、白葉枯病等が発生しやすいので、いもち病防除にも利用されているプロベナゾールやチアジニルおよびイソチアニルなどを常発地では事前に散布するなど予防を行う。

## 【大豆】

- (1) 大豆は、播種後2日間の大雨や浸水で、発芽率が著しく低下（酸素不足による窒息）するため、大雨が予想される場合は播種を延期する（無理して播種しない）。
- (2) 播種が終了している圃場では、圃場内の湛水を防ぐため、スムーズに排水できるよう圃場内や周辺に排水路を整備しておく。

### 令和4年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

